

親に万が一のことが起こった時のためのお役立ち情報②

## 「葬儀と遺影」

テーマ その他

みなさんは、ご自分の最後を飾るセレモニーを行う葬儀場を決めていますか？ 葬儀場やプランをすでに打ち合わせされている人はその日を迎えるだけなのでしょうが、まだ何も決めていない人は、どの会場でどのように人生の最後を締めくくるのでしょうか…

たぶん何も決めていないと、家族や親せきがどこかのセレモニーホールに依頼して、そこで提案されたプランで滞りなくご葬儀がとり行われるでしょう。

葬儀場が決まったらしましょう。次に準備を迫られるのは「遺影」です。

みなさんは遺影をご準備していますか？

準備していないという方は、ご自分のどの写真を遺影に使われるのでしょうか？

ご家族は、ご自分のお気に入りの写真を持っていますか？

最近はデジカメやスマートフォンで撮影することが増えたため、写真屋さんで現像してもらうことはほとんどなくなりました。安易に撮影できますが、「遺影」を意識して撮影していないこともあり、まあまあの写り映えの写真を選ばれてしまうでしょう。ご自分も納得できる朗らかな笑みを浮かべたナイスショットにたどりつく時間はあまりないのです。

実は、障がいのある成人した人の中には写真嫌いで直近の写真がないという方がいます。私は福祉の現場で30年以上支援をしてきたため、支援してきた方を見送ることも何度かありました。

ご高齢者だけでなく、若い方でも病気や事故でこの世を去っていかれることがあります。入所施設で長く生活していた方はご本人らしい笑顔を浮かべた写真を使えることが多いのですが、中には、ご本人が写真嫌いのため、療育手帳の写真が使われていることがあります。遺影の写真は28歳のご本人の顔ではなく、屈託のない10代のときの写真だったりするのです。

近頃は、個人情報保護により、本人の意思表示を明確にする書類があります。そのひとつに、施設で配布する広報や機関誌に写真を掲載してもよいかどうかの確認がありますが、「掲載しないでほしい」という意思表示をされると、施設の行事があってもカメラを向けることはできません。

「うちの子どもの写真はありますか？」と、問い合わせがあっても、このような理由でご提供できないことがあるのです。

私は、親も子も万が一の時に使うためにフォーマルな写真を準備されることをお勧めします。写真館などで家族写真を撮影するときれいに現像してくれますし、CDなどデータに落とし込んでくれるところもあります。それでも写真を嫌がる子どもだったら、「証明写真に使う」というとうまくいくことがあります。そんなときは、しぶしぶでも写真館まで連れていきナイスショットを撮影していただきたいと思います。

家族は生きている限り、その写真を見つめ手を合わせていくからです。